

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775600519		
法人名	有限会社 エフ・エフ産業		
事業所名	グループホーム さくら荘		
所在地	大阪府泉南市新家3566-4		
自己評価作成日	平成22年4月14日	評価結果市町村受理日	平成22年6月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2775600519&SCD=320
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4F		
訪問調査日	平成22年5月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

この辺りは、旧家も多く自然環境がたっぷりの田園や野原、山河があり、季節感を肌で感じて頂けます。暖かい日には、毎日職員が同行し、近くのお地藏さんまで、散歩に出かけたり、村中をくると回り、のんびりと過していただいております。また、週1回提携の医療機関の方から、主治医の先生が往診に来荘してくれます。緊急の体調の変化にも随時対応してまいりますので、入居者様は、安心して、生活されています。2階建てではありますが、緊急時にも、裏の道路にも面しているのので、2階の入居者様もそのまま階段を下りずに、外へ出られます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームの設立されている新家・下村地区は、泉南地区でもまだ田畑が多く残っていて四季感を感じやすく、当ホームでもそれを最大限に活かし、散歩などを通じて利用者に充分四季感を味わってもらっている。ホームの建物自体は社員寮を改装されたものであるが、共用空間も広く清潔感が感じられる。また、ホームのすぐ横に別館があり、和室も備えカラオケや風呂を用意され地域にも開放するようにしている。利用者についても、穏やかな表情で落ち着いた生活されている印象を受ける。地域との交流も活発で老人会に加入し、その行事に参加したり、ホーム自体も色々催しごとを考えられ地域住民を招待したり、地域のボランティアも積極的に受け入れられ、利用者の生活に潤いを与えるよう工夫されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている	毎日欠かさず、業務に入る前の朝礼時には、意識付けが出来るように、職員そろって理念を唱和しています。そして、常に入居者様に対する「思い」を職員間で、共有できるように、ミニカンファレンスをしながら、ケアを行っています。	法人の理念を柱として、当ホーム独自の理念を次のように作定されている。「利用者が安らかな生活をおくれる環境作りや、利用者本位の生活支援を行うと共に、地域社会とつながりを持ちつつ暮らしていく事をサポートする」。そしてそれに沿ったケアを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	必要な時に応じて、職員同行で、ご近所の美容院、花屋等へ出掛けます。また、施設周辺のゴミ、雑草も迷惑に感じられないうちに、取り除くように心がけながら、ご近所の方々へ自分たちの方から、気持ちよく挨拶させて頂いています。	利用者については、地域老人会に加入し種々行事(下村会館でのレクレーション、だんじり祭りなど)に参加し、地域資源も利用し、地域との交流はよく出来ている。ホームからも夏祭りや餅つき大会を開き、地域の方々に招待して、地域にとけ込む努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の方々との交流を通して、年間行事である夏祭り、餅つき大会など、毎年行ってきたが、昨年は、感染症の予防ということも有り、中止になりました。今年は、市が、大々的に研修を行う予定と言うことで、当施設も取り組んでいく予定です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、いろいろな報告、情報交換を行うその中で、自分たちの取り組んできたことなどについて相談し、今後のサービス向上につなげている。	運営推進会議には、行政代表(市担当課、地域包括)、地域代表(区長、民生委員)および家族代表が参加し、活発な意見交換の場となっている。参考になる意見はサービスの質の向上に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着型サービス事業所が集まり、毎月意見交換会、情報提供等を行なっている。その時の内容により、必要に応じて、その交換会に泉南市の職員の方々も参加しておられます。	市の担当課(高齢福祉課)とはよくコンタクトがとれていて、色々な相談ごとにもってらっている。また、市のグループホーム交流会に市の担当職員にも参加してもらい助言や情報を得たりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、行なっていませんが、門扉は施錠しております。門扉の外は、交通量の多い車道ですので、危険が伴います。ベッド柵の方も、職員は、拘束に当たることは、理解していますが、家族様の方が転落を心配されておられます。	身体的拘束の廃止に関する当ホームの方針「身体拘束ゼロへの手引き」に沿って研修を実施し、職員全員身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。やむを得ず身体拘束をせざるを得ない場合は、家族の了解を取り、市へも報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員代表が府社協主催の当関連法の研修に参加、施設内の勉強会で、職員に水平展開をしている。さらに以前より、インターネット等で、当関連法の情報を取得し、法令順守に努めている。また、社内研修においても、議題として取り上げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されておられる入居者さんがおられるので、実践を通して学ぶ事が出来ている。地域福祉権利擁護についても、正式ではないそうですが、利用されておられる方がいるので、地域包括支援センター、及び社会福祉協議会の方に協力していただきながら、入居者様の支援に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結んだり、解約をする際は、利用者や家族の不安、疑問がないか尋ね、十分に理解、納得して頂くように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に、コミュニケーションを図り、入居者の意見や不満などを聞くように努めている。また、家族様を通して不満など、訴えがある時は、状況に応じて入居者様、家族様を交え適宜カンファレンスを行い、問題解決に取り組んでいる。	家族については、運営推進会議や家族交流会でよく意見を言われる。また、家族の来荘も多いので、その時には何でも言って貰える雰囲気を作っている。カンファレンスの時、利用者やその家族にも参加してもらい、意見を言って貰うケースもある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングでは、各職員個人が出来る機会が設けられている。その議題については、ディスカッションし、皆の意見の統一の下決定されている。議事録を設け、後日問題が無いが、再度確認することになっている。	月1回のミーティングでは、法人の代表にも出来るだけ参加して貰い、出席している職員の意見をよく聞いてもらっている。参考になるものはホームの運営に反映して貰っている。それによって、職員の働く意欲向上につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの意見をよく聞いて、各自が向上心をもてるように、色々考慮して頂けてます。そのお陰で、職員の入替わりもあまり無く、入居者様が落ち着かれる場となっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	府社協など開催の社外研修並びにホーム内での勉強会及び母体法人での合同研修により、学びの機会を確保している。外部研修参加後は、ホーム内での報告・勉強会を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同経営、姉妹グループホームと交互研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時より、ご本人様、ご家族様の要望や情報をしっかり聴き取り、不安感を持たれる事の無いように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居になられるまでのご家族様のニーズの変化、意見、思いを充分聴き取り、受容し、支援につなげるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様のニーズの把握に努め、当施設の対象となり得るか否かを判断し、説明を行い、介護計画を立て、同意を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者様を家族の様に思い、過去の生活歴を充分理解した上で、活動の場を提供し、共に生活をするという姿勢で、常に支援をおこなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、何事においても常に、家族様と連絡を取り合い、共に同じ方向性を持ち、入居者様の支援を行うように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が大切にされているお友達、知人からのお便り、電話などで、元気に過ごされている事など、ご本人が伝えにくい場合には、間に入り、楽しく会話して頂けるよう、又、ご来荘時には、歓談され、楽しい時間を過ぎて頂けるように支援している。	高齢者ほど人間関係が希薄になっていくことはよく分かっている。そのため、最初のアセスメントシート作成時、なるべく友人や知人も聞き出すよう努力している。その方が来荘された時には、お互いに楽しい時間を過ごせるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じ目標、目的をもって頂けるレクリエーションや作業を日々のプログラムに取り入れ、時間の共有、達成感を味わって頂ける様に支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、近隣の方々の立ち寄りや元入居者様の家族様による来荘時などに、その後の経過など伺い、必要に応じて助言を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「どうしたいか」ということを、まず本人様に問いかけ、その言葉や、表情により、思いや希望を見出し、可能な限りその方の希望に添えるよう支援に努める。	最初のアセスメントシートで、本人の人生歴をよく知り、本人の思いや意向を把握し、職員全員で共有している。また、本人の機嫌のよい時の何気ない会話から思いや意向を把握する努力もしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族様から、細かく現在に至るまでの生活状況を聴き取り、スタッフ全員で、入居者一人ひとりの生活歴を把握し、その人らしく暮らして、頂けるようにできる範囲で支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の介護計画を立て援助を行っている。認知症の症状や身体状況を、お一人お一人見守りながら日々の介護経過記録を詳細に記載し、スタッフで共有することで、自立支援に繋がれるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様も交え、職員同士で、意見を寄せ合い、より良い暮らしをして頂くため、モニタリング及びケアカンファレンスを開催し、職員間の思いを共有することで、本人を主とした、「本人発」のプラン作成を行っている。	本人本位のケアプランを立てるため、職員のみならず本人やその家族にも参加して貰うケースもある。モニタリングも3ヶ月に1度以上行い、プランの進捗状況や変更の必要性を検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況や体調管理は詳細に介護記録に記入し、職員は、日々記録に目を通し、情報を共有している。口答での情報交換も常に行い、本人が「今」どうしたいかを追及し、計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の要望に応じ、食事メニューの変更や個室内の家具の配置の変更など、より快適な生活自立しやすい生活を目指し、柔軟な支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民ボランティアによる定期的な訪問、白井病院での認知症対応の作業療法にも毎週参加される。またご近所の老人会の催し物等にも、お誘いがあれば、大勢で押しかけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を取り入れ、病状や体調に合わせて適切な医療を受けられるよう支援を行っている。また、希望の医療機関があれば、ご本人、ご家族と相談し迅速に対応している。	従来のかかりつけ医を変更しながら利用については、それはそれで受診を支援している。それ以外の利用者については、かかりつけ医を協力医療機関にして貰い、毎月往診して貰ったりして受診を支援している。認知症専門医や他科の受診も支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員やかかりつけ医療機関の看護師と連携をとり、日々の体調管理や病状の報告、相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時サマリーを持参し、医療機関での対応がスムーズに行えるよう情報提供を行っている。また、適宜病院を訪問し、ご本人、ご家族から、話を伺うとともに、医療関係者と面談し病状の情報交換、退院後のケアを相談しながら、早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変の恐れのある場合は、医師から、ご家族へ、直接病状説明をして頂いている。本人の意思決定を可能な限り、実現できるよう、ご本人、ご家族、医師等と話し合い、方針をしっかりと定め、職員全体で共有している。「看取りに関する指針」にて、対応を共有)	重度化した場合の対応について、ホームで作成した「重度化および看取りに関する指針」を参考にし、本人や家族の意思を尊重し、かかりつけ医、ホーム側でできるだけ早く話し合っている。その結果を、関係者全員で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心拍蘇生についての勉強会などに積極的に参加する。また、起こる可能性が高いものについては、マニュアルを作成し、初期対応ができるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策として、年2回の避難訓練を行なっている。また、常に、「今、火事がおこったら、自分はどうすべきか、」という問いかけを行なっており、職員一人ひとりいつ何が起るか分からないということ、認識している。	非常災害時の避難については、職員の多い昼間は何とかできると思われる。しかし、職員の少ない夜間の避難については、職員だけでは無理であり、そのために、運営推進会議などを通じて近隣の住民の協力が必要であり話し合っているが、まだ具体化していない。	運営推進会議などで、近隣の住民と話し合い、夜間の非常災害時の利用者の避難について、具体的な協力方法など、必要なら文書化するなどして徹底しておくことが必要と思える。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりを敬う気持ちを常に持ち、声掛け時の言葉遣いやトーンには、充分配慮しています。	利用者については、人生の大先輩との尊厳を込めたケアを心がけている。特に声掛けやトイレ誘導、失禁時の対応、入浴介助などには、プライバシーを傷つけないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から、入居者さまが個々の思いを表しやすい環境づくりに努め、自己決定の実現の為の支援をさせていただいております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	入居者様個々の生活のリズムを大事にし、その支援のためにスタッフが動くように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装は、利用者個々に毎日決めて頂くよう援助し、好みのものを選んでいただいております。その際、天気、気温などに職員が気を配り、適切に選んで頂けるように心掛けております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ、洗濯物後片付けなど利用者様が十分に力を発揮し、主体的に食事を楽しんで頂けるよう見守り、声掛けをさせて頂いております。	食材購入先の栄養士が、利用者の意向を反映した献立を立て、調理は利用者向きに若干変化を加えてホームで行っている。利用者にも出来る範囲で手伝って貰い、職員も同席して同じものを食べ、利用者の食事をフォローしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるメニューの作成の他、毎食の摂取量、一日の水分摂取量を全職員が把握できるよう記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医の指導の下、毎食後歯磨き、入れ歯の手入れ、うがいなど、本人様の状態に応じた支援を行い、口腔内の清潔保存に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりのカンや排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の行動を職員が把握し、排泄ペース、サインを見出し、失禁前にトイレ誘導を行うように努めている。	利用者は、排泄感を感じると何かサイン(身体をよじる、キョロキョロする等)を出す。それを見逃さずトイレ誘導を行い、排泄パターンを把握し、自立排泄につなげるよう努力をしている。排泄チェック表も参考にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の便秘の原因を探り、それぞれに応じた自然排便を促すための工夫を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、基本的には、週3回ではあるが、後本人の希望により、随時入浴できるようにしている。季節により、入浴を楽しんで、頂ける様、工夫したり、(冬至のゆず風呂等)、また、別館でスーパー銭湯風に(カラオケ付)入浴を行っている。	入浴については、可能な限り利用者の過去のパターンを尊重するようにはしている。一応週3回が原則であるが、ホーム側からの押し付けでなく、入浴回数や時間帯は本人の希望通りにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中にレクリエーション、散歩などで、刺激をもって楽しく過ごして頂き、夜間良眠して頂ける様にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や、副作用、用法、用量を正しく理解し、飲み忘れや誤薬を防ぐための取り組みを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味や楽しみ事に合せ、日々の生活を送れるように支援している。家事支援、音楽鑑賞、お花観賞等をして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、体調により散歩に出かけたりしています。ご本人の希望により、買い物などにも同行させていただいております。	気晴らしや近隣への挨拶、季節感を感じて貰うため、散歩については重要と考え、利用者のADLに合わせた散歩を支援している。普段行けないような場所(お墓参り、和歌山県立自然博物館、みさき公園など)にも家族と同行する等して支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より、お小遣いを預かり、買い物にでかけたときは、職員が同行し、可能な方には、自身で支払いをして頂いている。家族さまが来荘時、金銭出納簿を閲覧して頂き、承認のサインを頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人のプライバシーに、配慮しながら、自由にやりとりできるように個別に支援している。本人様が、理解されにくい場合は、職員が間に入り、本人様にわかりやすいようにお伝えする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある飾りを利用者の方々と作成し、居心地の良いように工夫している。防火訓練など、音の刺激がありそうなときは、理解できない入居者様には、別館に避難して頂く。外出の行事も季節的なものを企画するように努めている。	共用空間(食堂兼リビング)については、ソファを置くなどして、コミュニケーションスペースが確保されている。季節を感じる工夫として、庭に咲いた花や利用者が作成した季節の飾り物を置いたりしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	戸外ベンチ、玄関付近ソファ、2Fベランダなど利用者同士で過ごせる場所を提供している。食堂の席順も利用者同士の相性も観察し、配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面も配慮しつつ、家族様にも協力して頂き、可能な限り本人の希望を取り入れた居室作りを行なっている。	利用者の目線で大きな文字で書かれた表札や、ドアには利用者の作った作品を掲げ、間違い防止の工夫が見られる。居室については、ホームから提供する物は最低限に止め、利用者の使い慣れた家具や日用品を持ち込んで、落ち着いて生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には、目の高さに大きな文字の表札を掲げたり、ドアに飾りつけ等を行い、自室が分かるように工夫したり、トイレや食堂などの表示も行なっている。		